

蔵王のオオシラビソ林を今年も調査しました

宮城県と山形県にまたがる蔵王山では平成25年に大規模な虫害により、広範囲にわたりオオシラビソの葉が食害を受け、続いて別の虫害により約16haにわたり枯死する事態となっております。

オオシラビソ林再生への、現地での取組は雪融け後の5月より、10月までに概ね予定通り完了しております。既報のとおり播種や移植をメインに進めているところですが、当署ではこの他、被害の拡大の有無など、現況把握のため被害があった区域を中心に各種の調査を実施しております。

令和6年8月8日(木)に、山形県立村山産業高等学校の協力を得て、キクイムシ被害状況の把握調査を実施しました。これは1箇所当たり30本のオオシラビソを有する調査プロット内で、立木の生枯、樹幹からのヤニの分泌の有無と量、キクイムシの穿入孔の有無と数量などを調査し、ひいては生息状況の広がりなどがどうかをモニタリングしているものです。

当日は登山者も稀な急坂の登山道を降り、別世界のような湿原の向こう側にある調査プロットにて藪漕ぎです。調査に協力して下さいました同校の生徒の皆さんや先生方、ありがとうございました。

令和元年度より始まったオオシラビソの自生稚樹の試験移植は、現時点で277本を数えております。概ね順調に生育しているのはまことに心強く、再生への確かな手ごたえを感じております。

今年度に移植を終えた区域を来年度以降もモニタリングし位置を把握するため、令和6年10月1日(火)より、ポケットコンパスという簡易な測量機器ながらトランシット(角度測定機能)を併せ持つ機種を用いて、オオシラビソ自生稚樹の個体間の角度と距離の測量作業を行いました。

オオシラビソ林が再生するまでは、たいへん息の長い取組となりますが、当署としましても引き続き、関係機関等と連携しながら、少しでも早く再生への確かな道筋を見出すことと、現状を把握するためのモニタリング調査を進めてまいります。

